

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週	今週	前週
インフルエンザ	661	674	百日咳	0
RSウイルス感染症	3	3	ヘルパンギーナ	27
咽頭結膜熱	24	15	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	44
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	90	74	急性出血性結膜炎	0
感染性胃腸炎	576	561	流行性角結膜炎(はやり目)	12
水痘	75	68	細菌性髄膜炎	1
手足口病	8	4	無菌性髄膜炎	1
伝染性紅斑(りんご病)	8	6	マイコプラズマ肺炎	2
突発性発しん	43	40	クラミジア肺炎	0

報告が多い感染症

- インフルエンザ
- 感染性胃腸炎
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- インフルエンザは、報告数 661件(前週報告数 674件)とわずかに減少。地区別では、八代、天草、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の161件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 576件(前週報告数 561件)とわずかに増加。地区別では、山鹿、人吉、有明に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の99件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 90件(前週報告数 74件)と増加。地区別では、天草、熊本、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、4歳の18件を最多に幅広い年齢層から報告されている。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	190	3	13	51	189	37	3	2	15	0	4	16		8	1	1	1	
山鹿保健所	31	0	0	0	45	8	0	0	2	0	0	0	*	*				
菊池保健所	41	0	7	8	57	8	2	0	9	0	5	5						
阿蘇保健所	5	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	10	0	0	0	10	0	3	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	122	0	0	3	49	0	0	0	6	0	1	1						
水俣保健所	3	0	0	4	11	2	0	0	0	0	0	7	*	*				
人吉保健所	68	0	0	9	48	1	0	0	2	0	0	0	*	*			1	
有明保健所	21	0	4	1	72	8	0	1	6	0	1	1		4				
宇城保健所	69	0	0	1	36	7	0	2	3	0	0	9						
天草保健所	101	0	0	13	54	4	0	2	0	0	16	5						
計	661	3	24	90	576	75	8	8	43	0	27	44	0	12	1	1	2	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上
インフルエンザ	661		6	11	13	31	36	38	70	68	57	56	161	38	21	28	12	8	3	3	1
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	3	2				1															
咽頭結膜熱	24		2	14	2		1		4	1											
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	90		1	3	9	14	18	9	11	6	8	3	5	1	2						
感染性胃腸炎	576	10	35	99	45	59	45	53	30	44	32	20	53	8	43						
水痘	75	2	6	18	17	9	12	4	5		1		1								
手足口病	8			1	1	3	1			1											
伝染性紅斑	8		1	2		1	1		1			1	1								
突発性発しん	43	1	24	15	2		1														
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	27	1		11	3	4	2	1	2			1	2								
流行性耳下腺炎	44			4	4	6	9	6	5	1	6		2		1						
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	12												1	2	2		4	1	1	1	1
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	1					1															
無菌性髄膜炎	1									1											
マイコプラズマ肺炎	2		2																		
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生 又は継続しつつある地域

- インフルエンザ：人吉
- 感染性胃腸炎：山鹿
- 流行性耳下腺炎：水俣

インフルエンザ



県全体のインフルエンザの患者報告数は、前週に比べてわずかに減少したものの、引き続き注意が必要です。今シーズンは、例年に比べ減少するスピードが遅いようです。八代・天草地域では、先週に比べ報告数が約2倍増加しており、一旦、警報レベルから脱していたものの、再び注意レベルを超えました。また、小学校や中学校等からの学年・学級閉鎖等も県内各地から報告が続いています。インフルエンザの診断情報では、約9割がB型となっています。インフルエンザは、突然の高熱と寒気、頭痛、全身のだるさ、筋肉痛などの全身症状が特徴です。時には肺炎や脳症などを併発して重症になることもあります。予防には、①流行時には人混みを避ける②手洗い・うがいを習慣づける③栄養、休養、睡眠を十分に取る④部屋の換気と保湿に心がけるなどの対策を行いましょう。もし、インフルエンザにかかってしまった場合は、学校や職場へは無理して行かず、早めに医療機関を受診し治療を受けましょう。また、周りの人へうつさないために、咳エチケットを心がけ、外出を控えるようにしましょう。

